人格の偉大性に関する心理学的研究

——（その５）特に，人格の「やさしさ」を規定する要因について——

藤　田　主　一

Ⅰ．研究の背景と目的

本研究は，人格研究の中でも特に人格の『偉大性（greatness)』を構成している要素や要因を明らかにすることが目標である。『偉大性』という概念は，通常「偉い人」「立派な人」などといわれる個人を構成する要因を総括するものであるが，必ずしも明確な定義が存在するわけではない。人の個性（individuality）に関係する心理学的な概念の中で，人の性質を表すものには，気質（temperament)，性格（character)，人格（personality）などがあり，それぞれ独自の基準と領域が存在し研究も進んでいる。気質は個人に生まれつき備わっている生理的基盤にもとづいたものであり，行動特徴のうちで感情的な反応と深く関係している。性格は個人の行動の仕方を特徴づけ，静態的で固定的な個人差を問題にする。人格は個人の背後にある一貫した行動様式を総合的に示したもので，人が日常生活の中で他者の個性を認知し，また他者との人間関係を円滑に遂行していく上で欠かすことのできない概念である。Allport，G. W. は「人格とは，個人の特徴的な行動や思考を決定づける個人内のダイナミックな精神身体的なシステムである」と定義している。ここでいう「ダイナミック」とは「力動的」ということであり，また「精神身体的システム」とは個人に内在しているさまざまな組織や体制のことで，それらは相互にかかわり合いをもち，決して切り離すことができない体系である。

一方，高嶋[1]は著書『偉人・天才の心理学』の中の「偉大性要因とその評価」の章において，偉大性とは何かについて次のように記述している。

「偉大性とは何かについては，今日，心理学でも客観的に明らかにされていない。なぜならば，余りにも漠然とした言葉であり，しかも「偉大」とは量的なものか，それとも質的なものか，また，なにを基準としているのかなど多くの問題が横たわっているからである。古くは“genius”の研究に，天才や優秀児の特性などが統計的に扱われていたが，しかし，偉人天才を中心にした“greatness”に関するものではなかった。

ゴールトン，ターマン，コックス，キャテル，ホーリングウォースなどは，もっぱら，この種の研究に努力を傾けはしたが，そのいずれもが数量的研究によるものであった。もちろん，客観

的に実態の把握には統計的操作は基礎として要求されなければならないからである。事実，人間の偉大さを客観的にとらえ，これを評価することは困難なことである。客観基準をどこにおくか，なにをもって「偉大」と決めるかが問題である。

過去における偉人天才といえども，かれらが遭遇した時代や社会の変化，あるいは個人の生活環境によって，いろいろな様相を示すからである。今までに出版された偉人天才に関する多くの文献の中には，“eminence” や “gifted”，“superior” という用語がしばしば出現しているが，“greatness” という用語は出ていない。」

ところで，『偉大性』の心理学的な構造がどのような要因の枠組みとしてとらえられるかについて，今日まで主として欧米の研究者たちが独創的な研究を進めてきた。それは「偉人」として取り上げられた人を，いくつかの観点から精査分類する試みである。たとえば，素質的な高い能力から稀にみる業績を成し遂げる（知性や業績の傑出），人間的に素晴らしい特性から人びとに尊敬される（性格や活動の高揚），非常に立派で世のためになるような仕事を残す（社会的名声や貢献の拡大）などの事実にもとづいて，「偉大」な個人を生み出す背景を明らかにしようとしてきた。そこでは，傑出した人＝偉大な人＝偉大性という学問的確証は得られていないが，彼らが何らかの偉大な人格を保有していた可能性は否定できない。ここで問題になるのは，私たちが特定の個人を「偉大な人」または「立派な人」と評価する基準をどこに置いているのかを追究すること，「偉大な人格」が形成される発達的なメカニズムを追究することである。歴史的な偉人や天才の研究も同様に考えていかなければならない。

筆者[2~5]は，『偉大性』を評価する40項目の質問票（**表1**）を作成し，この調査票を用いて種々の検討を重ねてきた。項目の選定については，大学生を対象とした予備調査の結果にもとづいている。自由記述によって「偉大な人」または「偉い人」を指し示す表現を収集し，得られた記述を類似性の高いカテゴリーでまとめ，仮説的ではあるが『偉大性』の5因子（BASIC）構造を想定している（**表2**）。この5因子は安定していることが確認されている。

このような経緯を踏まえ，本研究では『偉大性』因子に含まれる「性格や人柄」を特定する項目の1つである人格の『やさしさ』に焦点を当てる。今日，『やさしさ』という概念はいろいろな分野で使用され「性格や人柄」に限らないようである。たとえば，「地球にやさしい」「環境にやさしい」「胃にやさしい」「人にやさしい」などである。このような表現は，言葉のもつイメージの多様性を示すものであるが，本来の『やさしい』の意味内容を辞書から蒐集すると，以下のように分類することができる。

(1) 親切で，情け深く，思いやりがある。

（例）親思いのやさしい子。老人にやさしい。

(2) 上品で優美である。

（例）この仏像のお顔はたいそうやさしい。やさしい物腰。

表1　『偉大性』に関する40項目の質問票（藤田）

1. 一生懸命に努力する人	21. ルールや決まりをきちんと守る人
2. 発明や発見をした人	22. 立派な成績や記録を残した人
3. 家族のために行動する人	23. 社会に役立つことをしている人
4. 頭のよい人	24. 賢い人
5. 心が広い人	25. よく気がつく人
6. 自分の考えをきちんと言える人	26. 何事にもくじけない人
7. 社会で大きな仕事をした人	27. ノーベル賞をもらった人
8. 自分を犠牲にできる人	28. 電車でお年寄りに席をゆずる人
9. 豊かな知識がある人	29. すばらしい才能を持っている人
10. 性格がやさしい人	30. がまん強い人
11. 何でも最後までやりとおす人	31. 何にでもチャレンジする人
12. 大統領や総理大臣になった人	32. 歴史の教科書にのっている人
13. 社会のためにつくしている人	33. ボランティア活動をしている人
14. 判断力や決断力のすぐれている人	34. 頭の回転が早い人
15. 真面目な性格の人	35. 誰からも好かれる人
16. 自分の夢を実現しようと頑張る人	36. 物事に真剣に取り組んでいる人
17. 世界的に有名な人	37. 著書をたくさん出版した人
18. 困っている人を進んで助ける人	38. 世界平和のために貢献している人
19. 社会の出来事をよく知っている人	39. すぐれた技術を持っている人
20. 責任感の強い人	40. 思いやりのある人

表2　『偉大性』の5因子構造仮説（藤田）

(1)	行動の基準と努力……	『達成行動の強さ』因子……	Behavior
(2)	仕事や業績……	『知名度と高業績』因子……	Achievement
(3)	社会や家族への貢献……	『社会活動の貢献』因子……	Social contribution
(4)	知的能力の高さ……	『知的能力の高さ』因子……	Intelligence
(5)	性格や人柄……	『性格や良い人柄』因子……	Character

(3)　性質が素直で，おとなしく，おだやかである。

（例）気立てがやさしい。やさしい声で話しかける。

辞書的な解釈は3因子で説明でき，「思いやり」「優美」「おだやか」がキーワードである。現代の若者は『やさしい』という言葉が大好きである。「だってやさしい人」「ちっともやさしくない」などの言い方をする。すでに，詫摩[6]は「やさしい人といわれる人が備えている特徴の第一は，思いやりがあるということである。相手の立場に立って考え，相手の気持ちを敏感に受け止め，特に傷ついた心をよく理解できる人である。また物ごとによく気がつき，行きとどいた気配りをするが，しかしそれを決して誇張したりせず，さりげなくやる人である。……やさしい人の

第二の特徴としては，親切で思いやりがあるということである。これは相手の心にいま，何が生じているかを的確に汲みとる能力であるといってよい。 ……やさしい人の第三は，温厚で寛容であるという特徴である。めったなことで怒ったり大声でどなったりしない人，心が広くおだやかで安定感のある人 」と述べている。さらに，やさしい人の全体的なイメージは常に笑顔をたやさないで，ゆったりとした態度や行動をする人が連想される。伊藤[7] は大学生を対象にした研究で，やさしさを「思いやり」「誠実さ」の 2 因子で説明している。

他方，精神科医の大平[8] は著書『やさしさの精神病理』の中で，ある女子高校生が「この間，学校へ行く時，ふだんなら坐れないのに，突然，前の席が空いて坐れちゃったのね。そしたら次の次（の駅）ぐらいの時，オジイさんが私の前に立ってェ，私，立ったげようかなって思ったけど，最近の年寄りって元気な人，多いじゃないですか。ウチのおばあちゃんなんかも私たち孫以外の人がオバアさんなんて言ったら，もうプンプンだからァ，このオジイさんも年寄り扱いしたら気を悪くするかなあ，なんて考えてたらァ，立つのやめた方がいいか，なんて考えてェ，寝たふりしちゃったの」と主張する例を紹介している。彼女によれば，老人に席を譲らないのも「やさしさ」ということになる。大平は同じような臨床例（上司の前で黙り込んで返事をしないやさしさ，親から小遣いをもらってあげるやさしさ，親をがっかりさせないやさしさ，やさしく叱るやさしさ，など）を数多く紹介し，精神科医から見た『やさしさ』の意味を問うている。したがって，親に心配をかけることも『やさしさ』となる。さらに，旧来の『やさしさ』とは，相手の気持ちを察し共感することで互いの関係を滑らかなものにすることであったが，現代の『やさしさ』では相手の気持ちに立ち入ることはタブーで，相手の気持ちを詮索しないことが滑らかな関係を保つのに欠かせないというのである。

このように，『やさしさ』の意味や使い方に変化が見られているが，若者の人間関係の中でとらえられている本質はどのようなものであろうか。そこで，本研究では『偉大性』（BASIC）の「C」因子に含まれる『やさしさ』項目を取り上げ，その意味するところを明らかにしたいと考える。たとえば「やさしい男性／女性が好き」という場合，実際にどのような人物像を描いているのかは曖昧である。やさしさの内容を分類し，類型化・構造化への探索研究としたい。

II．研究の方法

1．調査対象者

本研究に参加した対象者は，東京都内および埼玉県内の大学に通う女子大学生 115 名である。調査時の平均年齢は19.9歳（19歳～23歳）であった。

2．調査材料

調査材料は，女子大学生から見た『やさしい男性』『やさしい女性』『やさしくない男性』『や

さしくない女性』の実像を把握するために，自由記述による方法が採用された。調査対象者の属性（年齢，所属など）を求めたフェイスシート（匿名）に続き，『やさしい人』について自由に記述できる空欄を設けたＢ４判横組み用紙を準備した。空欄はTST（Twenty Statement Test）方式に準じて６記述できるものであり，『やさしい男性／女性』『やさしくない男性／女性』の４カテゴリーの組み合わせで，４種類×６記述の計24個である。

3．手続き

(1) 自由記述の回答方法に対して，「あなたは『やさしい男性／女性』とは，どういう人を言うのだと思いますか？　男性／女性の『やさしさ』（性格，行動，考え方など）を具体的に書いてください」「あなたは『やさしくない男性／女性』とは，どういう人を言うのだと思いますか？『やさしくない男性／女性』（性格，行動，考え方など）を具体的に書いてください」という教示を与えた。

(2) 自由記述できる空欄はそれぞれ６個ずつあるが，記述量および記述個数は自由である。

(3) 記述後，「今書いた文章の中で，あなたが一番に主張したい『やさしい男性／女性，やさしくない男性／女性』を１つ選んで○印をつけてください」という教示を続けた。記述数の多い人はその中から選択させ，記述数が少ない人（例：１個）はそれを選択するように指示した。

(4) 調査は，それぞれの担当者が教室で集団実施した。

III．結果と考察

1．　記述内容の検討

調査対象の女子大学生から得られた記述総数は1,708個であり，これは記述予定数（115名×24個）の61.9％であった。その内，『やさしい男性』については512個（平均4.5），『やさしい女性』については396個（平均3.4），『やさしくない男性』については431個（平均3.8），『やさしくない女性』については369個（平均3.2）であった。男性に対する記述数が多いが，これは調査対象者が女性ということもあり，イメージしやすかったためと考えられる。

記述内容をまとめるに当たり，類似の回答を１分類としてカテゴリーを設定した。今回のデータ分析はいくぶん仮説的であるため類似性については確定したものではないが，女子大学生から見た場合の『やさしい男性／女性』と『やさしくない男性／女性』とも，同様のカテゴリーに分かれる可能性が示唆される。以下はそれをまとめたものである。

『やさしい男性／女性』（10種類のカテゴリー）

①気づかう人，②エスコートする人，③思いやりのある人，④相談にのる人，

⑤理解する人，⑥道徳的な人，⑦気配りする人，⑧穏やかな人，⑨援助する人，⑩その他

『やさしくない男性／女性』（9種類のカテゴリー）

①自己中心的な人，②攻撃的な人，③自分勝手な人，④気づかわない人，⑤自己主張する人，⑥冷たい人，⑦態度が変わる人，⑧交流しない人，⑨その他

ここでは，記述量全体の内容分析ではなく，女子大学生が○印をつけた1記述に着目することにした。すなわち，1名につき1記述の内容を類似のカテゴリーで分析するものである。

2.『やさしい男性』と『やさしい女性』の分析

記述内容を精査し，類似性の高い10種類のカテゴリーによる分類を試みた。**表3**は，その結果をまとめたものである。表からも理解できるように，『やさしい男性』と『やさしい女性』には出現順位（出現頻度）に差異が認められる。

表3　男性と女性にみる「やさしい人」の分類

（頻度，%）

カテゴリー	男　性	女　性	全　体	性　差
気づかう人	26 (22.6)	28 (24.3)	54 (23.5)	
エスコートする人	33 (28.7)	15 (13.0)	48 (20.8)	**
思いやりのある人	13 (11.3)	18 (15.7)	31 (13.5)	
相談にのる人	14 (12.2)	10 (8.7)	24 (10.4)	
理解する人	8 (7.0)	8 (7.0)	16 (7.0)	
道徳的な人	9 (7.8)	6 (5.2)	5 (6.5)	
気配りする人	4 (3.5)	10 (8.7)	14 (6.1)	
穏やかな人	3 (2.6)	10 (8.7)	13 (5.7)	*
援助する人	5 (4.3)	6 (5.2)	11 (4.8)	
その他	0 (　0)	4 (3.5)	4 (1.7)	*

* $p<.05$，** $p<.01$

『やさしい男性』に対する出現順位は，上記の分類に従うと「②エスコートする人」が最も高く全体の28.7%を占める。「エスコートする人」とは，たとえば「家まで送る」「車道を歩かせない」「ドリンクを運んでくれる」「ドアを開けてくれる」「手を引っ張ってくれる」という人であり，これはおそらく男性（相手）が女性（自分）に対してとる行動という意味と解釈できる。その次は「①気づかう人」(22.6%) で，これは「相手のことを考えられる」「心づかいができる」

「相手の気持ちを考えてくれる」「自分より相手のことを考えて気づかう」という人である。さらに「④相談にのる人」(12.2%) が続き，これは「話を落ち着いて聞いてくれる」「親身になって相談にのってくれる」「話をちゃんと聞いてくれる」という人である。いずれも，女性（自分）が男性から愛他的に関わられることを期待し，それが満足される行動を『男性のやさしさ』と理解しているようである。

一方，『やさしい女性』に対する出現順位は，上記の分類に従うと「①気づかう人」が最も高く全体の24.3%を占める。こちらの「気づかう人」とは，たとえば「相手を気づかえる」「周りの人に気をつかう」「自分に気をつかってくれる」という人である。その次は「③思いやりのある人」(15.7%) で，これは「思いやりがある」という人だけである。さらに「②エスコートする人」(13.0%) が続くが，これは「自分が困ったときに側にいてくれる」「自分をリードしてくれる」という人である。出現頻度の高い項目は男性に求めるやさしさと同様のカテゴリーに含まれるが，女性自身の立場から，女性に求めるやさしさの種類は男性に対するものと微妙に異なるようである。女性として特に期待されるやさしさで，相手の立場を考えて行動することが反映されるようである。

性差について検討した結果，表に見られるとおり3カテゴリーに有意差が認められた。「エスコートする人」は1%未満の水準（CR=2.93）で男性に強く求められる。「男性から女性へ」という構図が見える。「穏やかな人」は5%未満の水準（CR=1.99）で女性に強く求められる。おそらく，男性には穏やか以上の行動を期待していることが想像される。「その他」は分類が難しい記述であり，女性にのみ見られたため5%未満の水準（CR=2.05）で性差があった。これには，たとえば「吉永小百合みたいな人」「お母さんみたいな人」というものである。『やさしい男性』に「お父さんみたいな人」などという記述は見当たらなかった。

3.『やさしくない男性』と『やさしくない女性』の分析

次に，記述内容を精査し，類似性の高い9種類のカテゴリーによる分類を試みた。**表4**はその結果をまとめたものである。ここで，『やさしくない男性』と『やさしくない女性』に対する出現順位（出現頻度）の傾向を概観していくことにしよう。

『やさしくない男性』に対する出現順位は，上記の分類に従うと「①自己中心的な人」が最も高く全体の21.8%を占める。「自己中心的な人」とは，文字通り「自己中心的」という言葉で表現される人である。その次は「③自分勝手な人」(20.0%) で，これも「自分勝手」な行動を指すものである。女性から見た場合，「自己中心的な人」と「自分勝手な人」とは同じ行動特徴を示しているものと思われ，この両者を合計すると「やさしくない男性」の41.8%は，相手（すなわち女性である自分）を無視した行動をとる人である。さらに「②攻撃的な人」(19.1%) が続いている。これは「暴力（言葉を含む）を振るう人」「すぐ怒る人」「人の傷つくことを平気で言

表4　男性と女性にみる「やさしくない人」の分類

（頻度，%）

カテゴリー	男　性	女　性	全　体	性　差
自己中心的な人	25 (21.8)	29 (25.2)	54 (23.5)	
攻撃的な人	22 (19.1)	24 (20.9)	46 (20.0)	
自分勝手な人	23 (20.0)	19 (16.5)	42 (18.3)	
気づかわない人	17 (14.8)	10 (8.7)	27 (11.7)	
自己主張する人	9 (7.8)	6 (5.2)	15 (6.5)	
冷たい人	8 (7.0)	6 (5.2)	14 (6.1)	
態度が変わる人	2 (1.7)	8 (7.0)	10 (4.3)	*
交流しない人	3 (2.6)	5 (4.3)	8 (3.5)	
その他	6 (5.2)	8 (7.0)	14 (6.1)	

* $p<.05$

う人」などであり，男性による高飛車な態度への不満と受け取られる。『やさしくない男性』とは，「自己中心的で自分勝手，暴力を振るったり怒ったりするうえ，相手を気づかわない」態度をとる人とまとめられる。

一方，『やさしくない女性』に対する出現順位は，上記の分類に従うと「①自己中心的な人」が最も高く全体の25.2%を占める。これは，男性に対する記述と同様に「自己中心的，自分のことしか考えない」という人を指している。その次は「攻撃的な人」(20.9%）で，たとえば「人に文句ばかり言う」「意地悪」「かげ口を言う」「いやみっぽい」「乱暴な」などの人を総称している。さらに「自分勝手な人」(16.5%)，「気づかわない人」(8.7%）が続く。同様の分類カテゴリーであっても，女性自身を冷静に見ている内容と男性に対して不満を感じている内容とには差異があると思われる。たとえば「気づかわない人」を取り上げると，男性には「対女性（自分)」という視点を強調しているが，女性には男性や女性を区別せずに「周りの人のことや相手の気持ち」を問題にしている。すでに本調査に回答した女子大学生自身のなかに『やさしくない』という意味の根本的な構造差が存在するのかもしれない。

性差について検討した結果，１つのカテゴリーに有意差が認められた。それは「⑦態度が変わる人」であり，出現頻度は小さいが５%未満の水準（CR＝1.98）で女性の方に高い。「相手によって態度が変わる」という行動は世代性別と無関係と思われたが，周囲にいる人との関係を振り返った場合，やや女性の方に強く意識されるらしい。

4.「○○してくれる人」の分析

最後に，他者からの一方向的な供与を期待する記述（それを『やさしさ』と感じる傾向）につ

いて検討した。『やさしい男性／女性』への各115記述のなかに，「○○してくれる人」というものが目立った。『やさしい男性』『やさしい女性』への記述には，次のようなものがある。

『やさしい男性』	『やさしい女性』
・私の気持ちを考えてくれる人	・相手のことを考えてくれる人
・さり気なく助けてくれる人	・人が困っている時に力になってくれる人
・親身になって相談にのってくれる人	・休んだ時にノートを見せてくれる人
・ドアを開けてくれる人	・気をつかってくれる人
・守ってくれる人……など。	・話を聞いてくれる人……など。

表5は，出現頻度をまとめたものである。表からも理解できるように，出現率に差異が認められる。それは全体の分布（$\chi_0^2=20.32$）だけでない。記述の有無（○○してくれる：記述あり）では1％未満の水準（CR＝4.51）で対男性に有意に多い結果である。また，対男性にはほぼ半数ずつの出現率で有意差はないが，対女性には記述のない方が有意に多い（$\chi_0^2=34.50$）。

表5　「○○してくれる人」の出現

（頻度，％）

やさしい人	記述あり	記述なし
男　性	59　(51.3)	56　(48.7)
女　性	26　(22.6)	89　(77.4)

このような「○○してくれる」という表現の背後に，何が潜んでいるのかを知ることは大変興味深い。追跡調査や面接などを実施しているわけではないので，確実なところは不明であるが，調査対象者が女子大学生であることに限らず，対男性を自分の立場（自分から見た特定の男性）から眺め，広く『やさしい人』を想起するよりも，自分を中心に，自分の枠組みを大切に思って回答した可能性がうかがえる。女性は男性以上に，自分にとって得になるか否かを考える傾向が高いと言ったら言い過ぎであろうか。

Ⅳ．結　　論

以上の諸結果から，女子大学生を対象に『やさしい人』を規定する要因を自由記述によって求めると，おおむね次のように結論づけることができるであろう。

(1)　『やさしい男性』とは，「エスコートする人」「気づかう人」「相談にのる人」「思いやりのある人」「道徳的な人」などの順に出現頻度が高い人である。『やさしい女性』とは，「気づかう人」「思いやりのある人」「エスコートする人」「相談にのる人」「気配りする人」「穏や

かな人」などの順に出現頻度が高い。「エスコートする人」(男性＞女性),「穏やかな人」(男性＜女性),「その他」(男性＜女性) の3カテゴリーに性差が認められた。

(2) 『やさしくない男性』とは,「自己中心的な人」「自分勝手な人」「攻撃的な人」「気づかわない人」「自己主張する人」などの順に出現頻度が高い人である。『やさしくない女性』とは,「自己中心的な人」「攻撃的な人」「自分勝手な人」「気づかわない人」「態度が変わる人」などの順に出現頻度が高い。「態度が変わる人」(男性＜女性) のカテゴリーに性差が認められた。

(3) 『やさしい男性』と『やさしい女性』を規定する要因の中に,「○○してくれる人」という記述が見られた。これは『やさしい男性』の半数以上を占めており,また『やさしい女性』に現れた記述と比較して有意に多い。仮に,対男性を一般論ではなく周囲にいる身近で特定の男性に置き換え,その男性との付き合いを想起して回答したとすれば,『やさしい男性』とは「好きなタイプ」であり「自分にプラス」の行動を期待できる人ということになる。このあたりは解釈が何とも難しいが,自分を優先的に考える傾向が強い現代の若者を象徴的に反映していると思われる。『やさしさ』を男性と女性のどこ(性格,行動,考え方など)に置いているのかが複雑である。仮説的ではあるが,女子大学生がふだん口にする『やさしい人』『やさしくない人』の判断基準は,自分から見た男性と女性のことを言っているのであって,一般的な『やさしさ』ではないのかもしれない。

今後は,男性にも同様の調査を実施することが急務である。また,設定カテゴリーの精緻化をはじめSD法による質問項目への評価などをとおして,普遍的な人格の『やさしさ』の構造にせまりたいと考えている。

【参考文献】

1) 高嶋正士:『偉人・天才の心理学』,1997,医学出版社.

2) 藤田主一:「人格の偉大性に関する心理学的研究(その1)特に,児童による偉大性要因の分析」,1999,城西大学女子短期大学部紀要第16巻第1号,53-61.

3) 藤田主一:「人格の偉大性に関する心理学的研究(その2)特に,小学生と中学生による偉大性要因の比較」,2000,城西大学女子短期大学部紀要第17巻第1号,21-29.

4) 藤田主一:「人格の偉大性に関する心理学的研究(その3)特に,中高年における偉大性要因の分析」,2001,城西大学女子短期大学部紀要第18巻第1号,23-32.

5) 藤田主一:「人格の偉大性に関する心理学的研究(その4)特に,母親から見た高校生について」,2002,城西大学女子短期大学部紀要第19巻第1号,8-17.

6) 詫摩武俊:「『やさしさ』について――その心理学的考察」,1983,『青年心理』第40号,6-15,金子書房.

7) 伊藤忠弘:「『やさしさ』についての探索的研究」,2000,日本心理学会第64回大会発表論文集,203,京都大学.

8) 大平 健:『やさしさの精神病理』,1995,岩波新書.